

ひなた ぼっこ

第10号



生活介護事業所 とは

「生活介護事業所」は、常に介護を必要とする障害者に対して、障害者支援施設等において、主に日中に、入浴・排せつ・食事の介護サービスを提供するとともに、創造的な活動や生産活動の機会を提供などさまざまな面から利用者と関わります。

また、生活介護事業所によって提供するサービスは多岐にわたり、作業療法士や理学療法士が、利用者の身体機能や生活能力の向上・維持させるために機能訓練を行ったり、看護職員が常勤で医療的ケアに対応したりする事業所もあります。



CONTENTS

- 1p 生活介護事業所 こぐまくらぶ明石
- 2p 生活介護事業所 こぐまくらぶ森友
- 3p 生活介護事業所 サポートセンター双葉
- 4p 生活介護事業所 オーク
- 5p ブラインドテニスをご存じですか?
- 6p ARTSHIP明石 2024



●事業所名 こぐまくらぶ明石



管理者・サービス管理責任者

福井 美鈴

具体的な活動内容

作業活動

- 喫茶エール(お店当番・お買い物・お掃除練習チラシ配り)
- ビル清掃(窓・椅子・机拭き、モップ、掃除機で床清掃・トイレ清掃)
- アルミ缶(回収・仕分け・業者へ売却・地域の方へのお礼袋作成・チラシ配り)
- お弁当配達(配達・回収・チラシ配り)



生活訓練

- 音楽活動など
- デイケア活動(外食やレクリエーション)
- 映画鑑賞
- 学習(言葉の理解や数字など)
- リハビリテーションや運動
- 絵画



PRポイント・ひとこと

こぐまくらぶ明石事業所は、3つの班に分かれています。

1班:身の回りの自立に向けて、体力づくりを中心に毎日取り組んでいます。一人一人できることを増やしていくようスマールステップで目標達成を目指して、取り組んでいく優しい時間が流れています。

2班:元気で明るいそして仲間思いの方が多く、お仕事も助け合って何でも頑張っています。

3班:レクリエーションが大好き、一日を穏やかに過ごせることを目指し、毎日1つ1つ出来たことを積み重ねていきます。こぐまくらぶ明石事業所は、利用者さんの目標を大切にしています。職員は女性が多く、笑顔あふれる明るい事業所です。いつでも遊びに来てください(^_^)

●営業日:月曜日～金曜日(不定期に土曜日)

●定員:20名

●サービス提供時間:9:30～15:30

●送迎の有無:有り

〒673-0892 明石市本町2丁目9-6 RS本町ビル2F

●電話番号 **078-203-5656** ●FAX番号 **078-203-5656**

●メールアドレス:tmkb18494@nike.eonet.ne.jp

●ホームページ:<http://www.kogumaclub.com>



●事業所名 こぐまくらぶ森友



管理者・サービス管理責任者
松岡 由美子

具体的な活動内容

作業活動

- お弁当等販売(西区役所・玉津支所)
- アルミ缶作業(回収・仕分け・業者へ売却・地域の方へのお礼袋作成・チラシ配り)



生活訓練

- 入浴・運動・リハビリ(機能訓練)・散歩・ドライブ・近隣清掃・音楽活動・
デイケア活動(クッキング・レクリエーション)・学習・紙芝居



PRポイント・ひとこと

こぐまくらぶ森友事業所では、障がい支援区分5・6の方を限定して、こぐまくらぶ森友1・森友2事業所の2か所で、障がい福祉サービスを提供しております。個性を大切に、個別支援計画書に沿ったサービスの提供が出来るよう努めています。日々の事業所活動を作成し、活動は出来るだけ自己選択性を重視出来る様にしています。読書の時間を設けて、職員が本を読んだり、利用者さんが紙芝居をして下さったり、挨拶練習やコミュニケーションカードを使って表現方法をしたり、意思の伝達を広げていけるように支援しています。

森友1事業所では、入浴は車椅子式の機械浴を設置しており、より安全に快適に入浴して頂けるよう心掛けています。看護師が3名勤務しており、医療的ケアが可能です。PTによるリハビリ(機能訓練)や、職員がその指導を受けてリハビリ(機能訓練)を行うなどの支援をしています。

森友2事業所は、療育中心の事業所で利用者さんによる紙芝居や個々にあった学習、近隣清掃やアルミ缶回収を通じて地域の方との関わりを大切にしています。こぐまくらぶ森友事業所は、マンツーマンまではいきませんが、その状態に近い職員を配置しております。明るく笑顔が素敵な職員が自慢の事業所です。お近くにお越しの際には気軽に遊びに来てください。

- 営業日:月曜日～金曜日(不定期に土曜日)
- 定員:20名
- サービス提供時間:9:30～15:30
- 送迎の有無:有り



〒673-0029 明石市大道町1丁目1-25

●電話番号 078-926-1050 ●FAX番号 078-926-1050

●メールアドレス:tmkb18494@nike.eonet.ne.jp

●ホームページ:<http://www.kogumaclub.com/>



●事業所名 サポートセンター双葉



管理者

寺田 俊哉

具体的な活動内容

作業活動

- 割り箸の封入作業・箱の組み立て作業 等

余暇活動

- 散策活動・外出活動 等



PRポイント・ひとこと

ご利用者の人生がより豊かになるように、さまざまな活動や経験から「心の成長」を促し、QOLを高めていく支援を心掛けています。ご利用者一人ひとりのペースを大切にしながら仲間と楽しく過ごせる…そんな事業所でありたいと思っています。また、地域との交流を大切にしており、調理活動やバス旅行などの交流行事の他、さまざまな地域イベント等にも参加し、地域に溶け込んだ事業所づくりを行っています。



- 営業日:月曜日～金曜日
(土・日曜日に営業する場合あり)
- サービス提供時間:9:00～15:30

- 定員:20名
- 送迎の有無:有り
※地域によって要相談

〒674-0094 明石市二見町西二見605-2

●電話番号 **078-941-5471** ●FAX番号 **078-941-5471**

- メールアドレス:info-futaba@meioukai.com
- ホームページ:<https://www.meioukai.com>



法人名(運営主体) NPO法人 こども発達サポートセンター

●事業所名 生活介護事業所 オーク



私たち
・自閉症をはじめとした障害特性の勉強をします
・障害特性と個人の特性の両面に着目します
・見通しが持て安心できる環境づくり、わかりやすい
コミュニケーションの方法を学び、実践します
・先回りせず、ご本人が決めるなどを大切にします
・必要な準備は怠りません
・振り返りを行い、次につなげます
・個人でなく、チームで支援します
・利用者さんを主人公にした話ができます



管理者兼サービス管理責任者
玉木 伸宜

具体的な活動内容

作業活動

- 水耕野菜栽培、自主製品づくり(さをり、ゆび編み、ビーズ作品、刺繡、編み物)、下請け作業、畑作業 など



余暇活動

- ウォーキング、音楽療法、リズムボクシング、お茶教室、個別外出、季節のイベント(夏祭り、ハロウィン、クリスマスなど)



PRポイント・ひとこと

オークでは、「誰もが自分のことは自分で決めたいと思っている」という考えの下、障害の重さや言葉の有無に関わらず、自分で決めること、ご本人の話を聞くこと、利用者さんから教わることを大切にしています。職員は判断に迷った時の指針として、行動規範が書かれたカードを常時所持しています。

見学ご希望の方はお気軽にご連絡ください。また、月曜日の10時30分～12時、ふれあいプラザあかし西のロビーで製品販売をさせていただいています。よろしければお立ち寄りください。



【カードの内容】

私たちは

- 自閉症をはじめとした障害特性の勉強をします
- 障害特性と個人の特性の両面に着目します
- 見通しが持て安心できる環境づくり、わかりやすい
コミュニケーションの方法を学び、実践します
- 先回りせず、ご本人が決めるなどを大切にします
- 必要な準備は怠りません ●振り返りを行い、次につなげます
- 個人でなく、チームで支援します ●利用者さんを主人公にした話ができます



●営業日:月曜日～金曜日(祝日休み)

●定員:15名

●サービス提供時間:9:30～15:40

●送迎の有無:有り ※地域によって要相談

〒674-0084 明石市魚住町西岡607-1

●電話番号 078-962-5074 ●FAX番号 078-962-4074

●メールアドレス: oak.goodtime@gmail.com

●ホームページ: <https://kodomo-smile.net/oak/>



ホームページ



Instagram



フェイスブック



ブラインドテニスをご存じですか?

近畿ブラインドテニス協会 事務局員 野崎 繁



自己紹介



名前:野崎 繁
出身:兵庫県宝塚市
年齢:51歳
家族:3人 妻、長男
趣味:大のテニス好き 家族全員楽しくやっている
病状:網膜色素変性症 障害2級
夜盲、視野狭力低下、視力低下等
2015年発症



ブラインドテニスとの出会い



2015年発症の網膜色素変性症が少しずつ進行しており、ここ2年程すごく見にくい状態です。趣味のテニスをしてもボールが消えたり、見えにくくなったりして、仕事でもひどく不自由を感じてきています。同じ病状の兄に相談した際、日本ライトハウスを紹介してもらい、ブラインドテニスという競技があることを知りました。競技し始めて1年くらいですが、出会えて本当に嬉しく、感謝しています。



ブラインドテニスとは

目が見えなくてもテニスがしたいという願いに応えて約30年前に日本で考案された視覚ハンディキャップテニス。基本ルールは一般のテニスと同じだが、音が出る特殊なボールを使い、その音だけを頼りにボールの位置やボールのバウンドをくみ取り打ち返す。



●ブラインドテニスに使用するボールの特徴



直径90mmのスポンジボールの中に、盲人卓球用のボールが入っていて、さらにその中に金属球が入っています。



ブラインドテニスの今後の展望



この素晴らしいスポーツを後世まで残していきたいと考えています。このブラインドテニスを知らずにいる障がい者や一般の方にこの素晴らしいスポーツを周知出来ればと考えています。ブラインドテニスは1990年に日本で発祥し、海外に普及にいきましたが、海外では独特的の発展をし続け、世界大会も行われています。しかし、日本では国際大会は行われていません。

日本で発祥したブラインドテニスですが、周知や普及が乏しく、日本の競技人口は150名程度になっています。更なる普及活動で少しでも海外に追いつけ追い越せで世界のリーダーシップが取れるように考えています。

老若男女やどんな障がいがあってもみんながブラインドテニスに参加できるように出来ればと思います。

ARTSHIP明石 2024

今年度のARTSHIP明石2024は、明石市立文化博物館で2024年12月4日から10日の7日間、そして、初めてあかし市民広場で12月21日、22日の2日間で開催しました。明石市立文化博物館では延べ1,599名が来場され、あかし市民広場では延べ1,427名の来場、合計で3,026名の方にお越しいただきました。これは過去一番多い人数です。

ARTSHIP明石は、障害のある方のアートの祭典として開催しています。障害はあれども、その類まれなる個性や才能、素晴らしい感性から創り出されるアートの作品を、できるだけ多くの皆様に知って欲しいとの思いを繋ぎ続けてきました。おかげさまで最近では、メディアの方に取り上げていただくことも多くなってきました。

毎年6月に、ARTSHIP明石の取り組みがスタートします。ここから作品の構想を考え、作品を形作っていく作業に入っていきます。完成までの間、すごい熱量がそれぞれの作品に注ぎ込まれていくことになります。

特定非営利活動法人
明石障がい者地域生活ケアンネットワーク
(通称:135Eネット)副理事長

ARTSHIP明石 2024
担当理事 川田 晋



またARTSHIP明石の実行委員や担当者の力の集結のすごさをいつも感じており、「より良いものを創る・昨年を上回るものにしよう」とする思いは、何物にも代えがたく、まさしく「ワンチーム」です。

ARTSHIP明石では、アートの作品の展示に加えて、ワークショップやイベントを盛り込むことなども行っています。一緒に楽しめる場所、一体感を感じれる場所にすることで、障害の有無を感じない空間を生み出しています。その先に、真に心の通う、共生社会があるのではないかと思っています。

最後に、ARTSHIP明石は、明石市の委託事業になります。明石市障害福祉課の皆様のご支援を始め、明石市立文化博物館の皆様、あかし市民広場の皆様、多くの皆様のご支援を得て実施することが出来ています。このような機会をいただいていることに感謝し、多大なご支援をいただいていることに心よりお礼申し上げます。これからも、変わらぬご支援をお願いしたいと思います。ありがとうございました。



※過去の作品を含め、135EネットのホームページよりARTSHIP明石の作品を見ることが出来ます。是非ご覧くださいませ。

ホームページ: <https://135enet.com/activities/art-ship>





配慮が必要な人のために



ヘルプマーク・ヘルプカードを 知っていますか？

ヘルプマーク（カード）は、「手助けが必要な人」と「手助けしたい人」を結ぶマーク（カード）です。

障害のある人がまちに出たとき、予想もしていなかった場所で思わず困りごとが起こることがあります。

周りの人はそのようなときに助けを求められても「どう支援していいかわからない」という場合があります。

そこで、その両者をつなげるためのきっかけになるのがヘルプマーク（カード）です。



ヘルプマーク

こんな方にお渡ししています

- 目や耳、言語の障害、内部障害や難病、知的障害、精神障害、発達障害など、外見では不自由さや障害に気づかれにくい方
- 妊娠婦の方
- 認知症の方や高齢で体が不自由な方
- けがなどにより体が不自由な方

※以上の方々、希望される方にお渡ししています。

ちょっとしたあなたの手助けが、誰かの安心につながります

ヘルプマーク（カード）を持っている人への支援の内容はさまざまです。

まずはヘルプマーク（カード）を持った人が困っているところを見かけた場合は、「何かお手伝いできることはありますか？」などと積極的に声をかけるように心がけてください。

本人が何かしらの事情でうまく支援の内容を伝えられない場合は、ヘルプマーク（カード）の裏面または中身を見て、支援の方法が記載されている場合は、その方法で支援をするようにしてください。

まずは「声をかけること、気にかけること」がとても大切です。



例えば…

こんなとき、こんな場面を見かけたら → こんな手助けをお願いします。

- 発作でパニックを起こしたり、病変で急に倒れてしまって、自分の病気や障害を説明できないことがあります。



まず簡単な短い言葉で優しく声をかけてください。
ヘルプマーク（カード）にパニックや発作、病変のときにどうしてほしいかが書かれていれば、その方法で支援してください。

- 知的障害のある人がずっと同じ場所にいる。
それは、もしかしたら、道がわからなくなってしまったのかもしれません。



まず簡単な短い言葉で優しく声をかけてください。
ヘルプマーク（カード）に緊急連絡先が書かれていれば、そこに連絡してほしいか聞いてください。できるだけ安全な場所で過ごせるように配慮をお願いします。

【お問い合わせ・連絡先】

〒673-8686 明石市中崎1丁目5番1号
明石市障害福祉課

TEL 078-918-1344 FAX 078-918-5244
E-mail shoufuku@city.akashi.lg.jp

※ヘルプマークの交付には、申請手続が必要です。

【発行】特定非営利活動法人 明石障がい者地域生活ケアネットワーク（通称：135Eネット）

【連絡先】〒673-0883 明石市中崎1丁目5番1号 時のわらし内 TEL&FAX 078-918-8500 【発行日】2025年2月17日

特定非営利活動法人明石障がい者地域生活ケアネットワーク（通称：135Eネット）は、地域に点在する社会資源を有機的に繋ぐと共に明石市等の行政機関と協同し、障がい者に対して社会参画促進や生活支援に関する事業を行い、障がいのある方やその家族の方が、ひいては明石で暮らす市民の方々が明石の地で安心して暮らせるまちづくりに寄与することを目的としています。

※現在明石市及び周辺地域の100以上の中がい児者支援事業所や教育機関、当事者団体が連携・連帯のもと活動しています。



＜ひなたぼっこHP＞
<https://akashi-ud.info/>